

台湾が取り組むサーキュラーデザイン（循環設計）

富山県台北ビジネスサポートデスク

(株)ジェック経営コンサルタント台北事務所 所長 平川 正紘

2019年、店内飲食でのプラスチック製ストローを法律で禁止するなど、台湾は政府と企業が一体となりサーキュラーデザイン（循環設計）を目指しており、今や台湾の資源リサイクル率はドイツに次いで世界2位である。（2015年時点で55%）

台湾でもコロナ禍によりEC市場が急速に伸びており、それに伴い梱包資材が問題となっている。消費が経済活動の中心であるという現実の中、持続可能な社会に向けてデザインが果たす役割とは。

1. 各企業の取り組み

『モノの源はデザインである。もしデザインを起案する際に、材料選定から使用後の流れまでを考えることができれば、モノは資源にもなりうる』と語るのは「台湾デザイン研究院」の担当者である。台湾では

1. 材料再利用 ・ リサイクル
2. 革新的な材料開発

に注力し、循環設計に取り組んでいる。

台湾の取り組みは2010年までに遡る。Miniwiz（小智研發股份有限公司）という会社が台北国際花卉博覧会の舞台上で「世界初のカーボンニュートラル建築」をお披露目した。

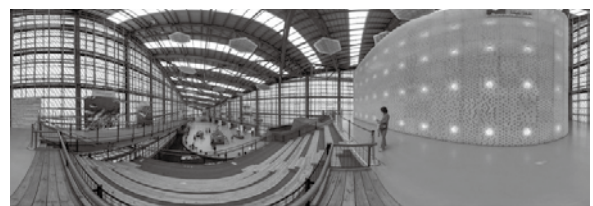
この建築は「EcoARK（環生方舟）」と呼ばれ、台湾産の「竹」を骨組みとし、152万本の使用済みペットボトルにより構成さ

れている。半年間の期間中700万人が会場を訪れ、またナショナルジオグラフィックがドキュメンタリー番組を作成するなど、本プロジェクトは非常に大きな反響があった。そして、この建物は今も存在している。

同社は2015年「World Economic Forum」で持続可能な社会へ取り組む企業として表彰されており、まさにパイオニアである。



遠東環生方舟



EcoARK（環生方舟）の様子

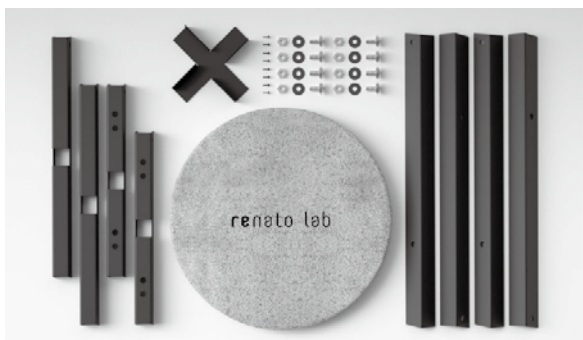
2016年以降、台湾政府も企業に対する助成制度を設けるようになり、循環経済の概念が注目されるようになり、様々な企業が独自の取り組みを行うようになる。2015年に設立された「REnato Lab」も注目すべき会社である。

同社は廃棄物に対する継続的な研究と実験、そして豊富なアイデアで実現可能な製品を開発する環境コンサルティング会社である。

同社はIT関連の工場により大量廃棄されたプリント基板の従来処分方法（埋立や焼却）に課題を感じていた。そして、これらの廃棄されたプリント基板を粉碎し、石のような素材「RE Stoneシリーズ」として、工業製品のデザイナーと協力し、テーブル、ワインクーラー、ブックエンドなどの生活用品を開発することで廃棄されたプリント基板の新しい可能性を示している。本事業は多くの企業に廃棄物の価値を信じてもらうモデルとなっている。



RE Stoneシリーズ



Renato lab

近年、商品開発だけではなく空間にも循環設計の概念が盛り込まれている。「O'right台湾」では商品だけではなく、店舗空間、会社の建築に関しても同様の概念/素材が採用されている。それにより、メディアに取り上げられることも多く、また国内外問わず企業視察が後を絶たない。



O'right台湾

2. 政府機関の取り組み

これらの企業の取り組みをバックアップする体制も充実している。2018年には世界で初めての循環設計をテーマとした企画展を開催している。この企画展は継続性があり、今後も2年に一度、開催される予定となっている。

また多くの企業が商品開発を行ったこともあり、販売のプラットフォームの整備（DesignPin）、やデザイナーやメーカーとのマッチングを目的とした材料や加工方法のデータベースも確立している。



循環設計展

循環経済は単純なリサイクルだけではなく、今までとは異なるビジネスモデルであり、新しい視点で環境と付き合うこととなる。その際デザインによる問題解決方法は無限であり、循環経済を発展させるための最も重要なカギとなる。